

# 第 14 回 世界大学卓球選手権大会

## 活動報告

2002年8月30日～9月10日

健康スポーツ教育センター

高島 規郎

14<sup>TH</sup> World University Table Tennis Championships

WROCLAW 4-8.09.2002.

Takashima Norio

### 目次

- 1 日程表
- 2 選手団紹介
- 3 大会目標について
- 4 ミニ合宿について
- 5 試合結果について
- 6 試合とからだの意識について
- 7 大会記録報告
- 8 今後の課題

## 世界大学選手権大会

8/30 (金)	成田 フランクフルト リュースハイム	NH209	09:30 11:35 16:35	成田空港第2ターミナルAカウンター集合 成田よりNH209便にてフランクフルトへ フランクフルト着 フランクフルト着後専用車にてリュースハイムへ リュースハイム泊
8/31 (土)	リュースハイム グレンツァオ		午前 午後 夜	時差調整 フランクフルトより専用車にてグレンツァオへ 調整練習 グレンツァオ泊
9/1 (日)	グレンツァオ		終日	調整練習 グレンツァオ泊
9/2 (月)	グレンツァオ フランクフルト ブロッツワフ	LO366	午前 15:10 17:00	調整練習 練習後、専用車にてフランクフルト空港へ フランクフルトよりLO366便にてブロッツワフへ ブロッツワフ着 ブロッツワフ泊
9/3 (火)	ブロッツワフ		終日	調整練習 ブロッツワフ泊
9/4 (水) ↓ 9/8 (日)	ブロッツワフ			世界大学選手権大会参加 ブロッツワフ泊
9/9 (月)	ブロッツワフ フランクフルト	LO365 NH210	午前 12:30 14:20 20:30	ホテルより空港へ ブロッツワフよりLO365便にてフランクフルトへ フランクフルト着 フランクフルトよりNH210便にて帰国の途へ 機内泊
9/10 (火)	成田		14:35	成田着

## 1. (はじめに)

日本学生卓球連盟理事会(H14,7)において、第14回世界大学卓球選手権出場の代表選手及び、役員が発表された(別紙1)。選手の選考は、6月に代表選考会が行われ、上位男女5名が選出された。役員については、理事会において推薦された。

今回は男子監督という立場で参加し、チームをまとめることになった。世界大学卓球選手権大会は、ミニ世界大会と呼ばれ、7種目(男子団体・男女ダブルス・男女シングルス・ミックスダブルス)にエントリーされている。参加国は23カ国が出場している。元々、卓球事情は、プロ化が進み特にヨーロッパ諸国では、15~16才からプロを目指し、大学に進学しない傾向が見られた。したがって、唯一日本のみアマチュア組織を維持しているので、スポーツ選手の大部分がカレッジスポーツ競技に励んでいる。当然のように過去の実績も優秀であったが、最近では、中国や韓国また、ヨーロッパにおいても大学生としてのプロ選手が目立つようになり、競技レベルもトップクラスに近づいた。今日の世界大学選手権も、中国選手は世界ミックスダブルスのチャンピオンが出場し、他数の世界ランキングプレイヤーが参加してきている。事前の調査で強豪と言われる外国選手の情報も正確に把握が出来ていたので、試合に対する準備を整えることができた。



## 2. 時差調整合宿

(ドイツ：グレンツァオスポーツクラブ)

8月31日からグレンツァオスポーツクラブで3日間調整合宿を行った。ドイツは大変卓球が盛んな国であり、ブンデスリーグとして古くから行われている。日本卓球協会登録人口は25万人に対して、ドイツ協会は90万人の登録者がいる。又、日本との卓球交流も深く、日本選手も卓球留学をしているほどである。

合宿地は、グレンツァオ(GRENZAU)

フランクフルトからバスで東へ約1時間ほどの小さな山間の地にあるスポーツクラブである。WESTERWALD-SPORTHOTELと練習場が隣接し、ホテルの内容も充実しており快適な合宿地である。

- ・調整合宿練習 8月31日
  - イ) PM3:00 : ストレッチ&ランニング (30分)
  - ロ) PM3:30 : 基礎的打球練習 (システム練習)
  - ハ) PM6:00 : ストレッチ体操 (終了)
  - ニ) PM7:00 : 夕食 (ホテル内 レストランバイキング)
  - ホ) PM9:00 : スタッフミーティング (スケジュール調整)
- ・9月1日
  - イ) AM7:00 : ストレッチ&ランニング (30分)
  - ロ) AM7:30 : 基本システム練習
  - ハ) AM9:00 : 早朝練習終了
  - ニ) AM2:00 : ブンデスリーグ観戦 (グレンツァオ vs. カールスルーエ)
  - ホ) PM6:30 : ストレッチ&ランニング
  - ヘ) PM7:00 : 実践的練習 (各自課題練習)
  - ト) PM8:45 : ストレッチ体操

(終了)

- チ) PM9:00 : 夕食  
(ホテル内 レストラン)
- リ) PM10:00 : スタッフミーティング

・ 9月2日

- イ) AM7:00 : ストレッチ&ランニング  
(30分)
- ロ) AM8:00 : 基礎的練習  
: 応用システム練習  
: 実践的練習 (試合他)
- ハ) AM11:00 : ストレッチ体操 (終了)
- ニ) AM11:30 : 昼食後  
(専用車にてフランクフルト空港へ)
- ホ) PM5:00 : ブロツワフ着  
(ブロツワフ泊)

### 3. ポーランド (ブロツワフ市)

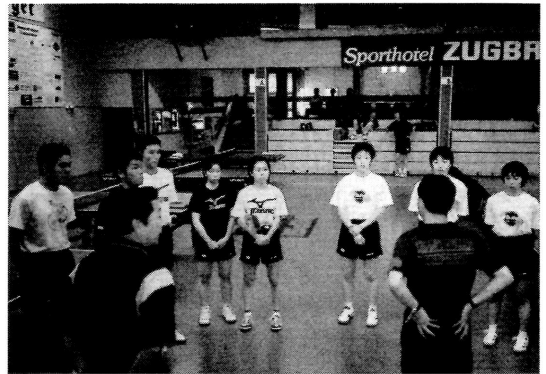
ブロツワフ空港に到着後、バスで大会宿舎のホテルへ直行し、選手、役員のIDカードの発行と選手の部屋割りや利用する施設の案内を行った。

開催都市ブロツワフ市は、ポーランドの西南に位置した都市で、ブロツワフ周辺は、オドラ川があり、古くからシロンスク地方(シレジア地方)の中心地として栄えた町である。6世紀にはすでにスラブ人の集落が形成されていたと言われている。市街にはたくさんの博物館や美術館が散在し、文化遺産も豊富である。9月初旬の気温は最高20℃、最低15℃ほどで、中旬ぐらいから気温が下がってくる。時差は日本時間より7時間遅い。通貨はズウォティ(ZL)で1 ZL=約31円である。

9月3日(火)

世界大学卓球選手権大会前日の調整練習は大会会場で割り当てられた。コートで約2時間程度の練習を行った。練習後、会場にて選手団ミーティングを行い、大会に備えての心構えやコンディションの調整に注意をはらうよう指示を

行った。特に、食べ慣れない食事面での注意であった。又、日本代表選手としての自覚、積極性、諸外国の選手とのコミュニケーションを測ることの大切さを十分徹底するよう指導した。



9月4日 : 第14回世界大学選手権初日

: 男女団体戦がスタートし、日本女子は予選A組に出場し、タイ・チェコを破り、1位で予選を通過した。又、日本男子はシード国となり、予選なしで準々決勝で韓国と対戦する。

: 男子団体参加国(18カ国)、女子団体参加国(14カ国)

9月5日 : 男子団体準々決勝: 日本 3-0 韓国

日本男子は、強豪韓国との対戦であったが、常に積極的に攻めた日本選手の圧勝であった。

: 男子団体準決勝: 日本 1-3 オランダ

日本のエース三田村(青森大学3年)選手が、試合中に足首のねんざを起こし、接戦をものにすることが出来なかったため、アクシデントでの敗戦は少々残念な結果となった。競技スポーツの場合には常にアクシデントが起こる恐れがあり、運、不運に左右されることも考えられる。団

体戦は3位に終わり、中国が優勝した。

: 女子団体準々決勝：日本 3-1  
オランダ

: 女子団体準決勝：日本 3-2  
韓国

日本女子は、前半2-1とリードを許したが、後半に韓国の勢いをおさえ、3-2で逆転し、決勝戦に進んだ。

: 女子団体決勝：日本 0-3 中国  
日本女子は健闘及ばず、中国の壁にはばまれて2位であった。

9月6日 : 男女個人戦のスタート

男女シングルス・男女ダブルス・混合ダブルスが、30分おきのタイムテーブルで行われた。混合ダブルスにおいて、2組が準決勝に進出した。



9月7日～8日

: 男子シングルスは決勝トーナメント3回戦で全員が敗退した。やはり、世界ランキングプレイヤーとの対戦になると、戦術、技術において差があると感じられた。又、経験の差といった場面も多く見られた。

: 混合ダブルス準決勝は、福岡・三田村組が中国ペアを破り、決勝に進出

した。又、藤井・田勢組は世界ナンバーワンの中国ペアに敗れ、3位に入賞した。

: 男子ダブルスは、2組が準決勝に進出し、共に中国ペアに敗れ、3位に入賞した。

: 女子ダブルスは、準決勝で2組が進出し、強豪中国ペアを準決勝で破り、日本ペア2組の決勝となり、潮崎・藤井組が福岡・川村組を破り、日本ペアが1位、2位を獲得した。

: 女子シングルスは、ベスト8位に潮崎・藤井が入り、福岡が準決勝に進出したが、善戦むなしく中国選手に敗れ、3位となった。

上記の記録通り、日本学生代表選手は、7種目のうち6種類にメダルを獲得するといった、近年にない活躍であった。しかし、全種目を上位で勝つためには、技術はもちろんのこと体力や気力、また体調の管理が出来なければ目標が達成できないことは言うまでもない。今回の活躍は全員の体調も良く、練習量も豊富な選手の集団であったこともあり。いち早く、大会の雰囲気慣れ、一戦一戦勝ち進むにつれ、実力を発揮することが出来たと思われる。

4. 選手個人の体調とメンタル面のチェックリストについて

1) 自覚症状しらべ

今のあなたの状態について、次のようなことが(あったら○、ない場合には×)のいずれかを、□の中に記入して下さい。

1. 頭がおもい		11. 考えがまとまらない		21. 頭がいたい	
2. 全身がだるい		12. 話をするのがいやになる		22. 肩がこる	
3. 足がだるい		13. いらいらする		23. 腰がいたい	
4. あくびがでる		14. 気がちる		24. いき苦しい	
5. 頭がぼんやりする		15. 物事に熱心になれない		25. 口がかわく	
6. ねむい		16. ちょっとした事が思い出せない		26. 声がかすれる	
7. 目がつかれる		17. することに間違いが多くなる		27. めまいがする	
8. 動作がぎこちない		18. 物事が気にかかる		28. まぶたや筋肉がピクピクする	
9. 足もとがたよりない		19. きちんとしていられない		29. 手足がふるえる	
10. 横になりたい		20. 根気がなくなる		30. 気分がわるい	

2) 試合におけるメンタルチェック

今日の試合のことを思い出して次の質問に答えてください。答えは、あてはまる番号を○印で囲んでください。

	(	1. そんなことはなかった			
	答	2. すこしはそうであった			
	え	3. かなりそうであった			
	)	4. そのとおりであった			
1. 最後まであきらめずに頑張った	1	2	3	4	
2. ファイト(闘志)があった	1	2	3	4	
3. 挑戦する気持ちがあった	1	2	3	4	
4. 勝ちたいと思っていた	1	2	3	4	
5. 集中していた	1	2	3	4	
6. からだ(筋肉)はリラックスしていた	1	2	3	4	
7. 自信があった	1	2	3	4	
8. 作戦がうまくあたった(的中した)	1	2	3	4	
9. 仲間と励ましあって試合できた	1	2	3	4	
10. 楽しかった	1	2	3	4	

### 3) 結果報告

・試合の意識調査

- 男女選手とも以下の項目で強く意識している  
 6・・・(からだ(筋肉)の緊張度があった)  
 8・・・(作戦があまり上手にできなかった)  
 7・・・(自信がなかった)

・からだのコンディション調整

- 男女選手ともコンディション調整では以下の項目で強く感じている  
 6・・・(ねむい(睡眠不足)夜、ねむれない)  
 10・・・(横になりたい(疲労度))  
 22・・・(肩がこる(緊張や力み))

### 5. 大会記録報告

(1) 男女団体戦結果

- ・日本男子チーム (3位)  
準決勝 1-3 オランダ
- ・日本女子チーム (2位)  
決勝 0-3 中国

(2) 男女ダブルス結果

- 男子) 3位 熊田・高森組  
 3位 三田村・田勢組  
 女子) 1位 潮崎・藤井組  
 2位 福岡・川村組

(3) 混合ダブルス結果

- 2位 三田村・福岡組  
 3位 田勢・藤井組

(4) 男女シングルス結果

- 男子) 2回戦敗退  
 女子) 3位 福岡(日本大)  
 8位 潮崎(淑徳大)  
 8位 藤井(淑徳大)

(5) トータル試合数 (日本選手のみ)

- トータル数 90試合、  
 ゲーム数 358ゲーム

### 6. 日本学生卓球界の今後の課題

卓球日本の長い歴史の中で、学生陣の果たしてきた役割は大変に大きく、1950年代から世界の頂点に立ってから今日まで、世界中に日本の卓球の強さを示してきた。しかし、近年1990年代から世界のトップから落ち始め、2001年の大阪世界選手権で、個人戦において26年ぶりに女子ダブルス(武田・川越)で銅メダルを獲得するのみに至っている。特に学生陣の低迷さが目立ち、文武両道の難しさや、環境や条件の違いも諸外国と比較して、今一歩遅れを取っているのが現状である。しかし、スポーツ競技において学生時代の18才~22才の年齢は、体力、筋力、気力においても充実している年代と考えられる。スポーツの世界での活躍年齢は、まさにこの時代であるはずである。一番の課題は、何と言っても国際経験の無さである。モチベーションを高くすることも重要であるが、これも、色々な大会(主として国際大会)に出場し、諸外国の選手の情報や強さ(戦術・技術)を肌で感じ取ることが必要であると考えられる。そうなれば、日本選手独自のプレイスタイルや、日本選手の精神面もある意味での良いハングリー精神も生まれてくると思われる。外国選手と比較しても技術面や戦術面が弱いのではなく、立派に戦っていけるだけの能力を身に付けている選手も多くいる。一つのキッカケ(国際経験)で、それがターニングポイントとなり、以後世界を目指せる選手が出現すると思われる。今回の大会に出場した男女の代表選手に大いに期待したいものである。

第14回世界大学卓球選手権大会代表団

団長	木村 隆文 (日本学生卓球連盟副会長)
男子監督	高島 規郎 (日本学生卓球連盟副理事長)
女子監督	渋谷 五郎 (日本学生卓球連盟理事長)
国際審判	横須賀成良 (東京卓球連盟理事)
総務	武山 嘉成 (日本学生卓球連盟理事)
主務	間山 右子 (日本学生卓球連盟幹事長)
男子選手	三田村宗明 (青森大学：3年)
	熊田 智幸 (同志社大学：4年)
	高森 英郎 (筑波大学：4年)
	田勢 邦史 (青森大学：3年)
	中野 祐介 (早稲田大学：1年)
女子選手	潮崎 由香 (淑徳大学：3年)
	大畑奈保子 (大正大学：2年)
	福岡 春菜 (日本大学：1年)
	藤井 寛子 (淑徳大学：2年)
	河村 茉依 (東京富士大学：2年)